

## 動物園と学校が連携するには？ -Edcamp Yokohama #1 からの考察-

川口芳矢

(公益財団法人横浜市緑の協会 横浜市立よこはま動物園)

動物園は野生動物の保全教育や環境教育などを実践する社会教育施設である。これらを広く普及させるため手段の一つとして、学校との連携がある。これまでよこはま動物園では様々な形で学校と連携してきたが、長く継続しているものは多くない。今回、動物園と学校のより良い連携を行うために学校側の要望や課題、問題点などの収集と、動物園側の提供可能な要素を紹介し議論することを目的に、教育に関わる人々が自主的に集まる Edcamp Yokohama #1 に参加した。その結果、始めに行った参加者からの意見収集では、動物園との連携を求める声が予想以上に少なかった。後で参加者と個別に懇談した際の反応から、実施に動物園とどのような連携が可能なのかが知られておらず、過去の実績を紹介すると非常に興味を示す参加者が多かった。しかし、実際に動物園と連携するとなると様々な課題や問題点が存在し、教師が多忙な通常業務の中で動物園との連携に時間を捻出することの困難さや、学校との往復を含む連携中に事故等が発生した場合の責任問題などが挙げられた。一方、2020年に改定される学習指導要領では「社会に開かれた教育課程の実現」が掲げられており、これまで以上に学校と地域社会の連携が求められるようになる。改定に向けて、各学校においてどのような地域連携が可能かを検討している状況にあるため、動物園との連携が活発になることも示唆される。これまで行われてきた学校との連携では、窓口となる担当者同士の信頼関係で成り立っていたところが大きく、人事異動と共に終了してしまうことも多々あった。担当者レベルもさることながら、組織間で連携するシステムの構築が長く続く連携事業に必要であり、そのためには両者の間にコーディネーターを置くことが有効ではないかと思われる。